

# スポーツ観戦の阻害要因

—知覚リスクに着目して—

藤田 洗太 (競技スポーツ学科 スポーツビジネスコース)

指導教員 吉田 政幸

キーワード：スポーツ観戦，阻害要因，知覚リスク

## 1. 緒言

文部科学省が策定した「スポーツ立国戦略」の中で「観る」スポーツの重要性が謳われている。このことから、スポーツ観戦を振興させる方策が必要である。先行研究は、Jリーグの観戦動機に関する研究(Mahony et al., 2002)など、動機に着目したものが多かったが、阻害要因に着目した研究は少ない。本研究は、コトラー・ケラー (2008) の知覚リスクを基にスポーツ観戦の阻害要因を検証することを目的とする。分析では、男女別、チームへの愛着別 (高・低)、ホームタウンチームの支持者か否かの3通りで比較した。

## 2. 研究方法

11月にアンケート調査を実施した。その際、対象者を20代、30代、40代、50代、60代以上の5グループに分類し、均等に配布した。180票を配布し、179票を回収した。有効回答数は169票であった。基本属性に加え、コトラー・ケラーの知覚リスクを質問項目に用いた。多変量分散分析を用いて、知覚リスクを男女間、チームへの愛着が高い者と低い者、ホームタウンチームの支持者か否かの3通りで比較した。

## 3. 結果と考察

有意差が最も多く見られた男女間での比較分析の結果を表1に示した。男女間では、機能的リスク、社会的リスクの2要因で有意さが見

られ、ともに男性の方が大きいことが示唆された。理由として、機能的リスクは、男性の方が試合内容に熱狂的になる傾向と関係しているものと考えられる (吉田・小笠原, 2011)。社会的リスクは、多くの調査対象者が、男性アスリートのプロスポーツ (阪神タイガースなど) に関する回答をしていたため、男性志向のプロスポーツ観戦に対して男性観戦者の方がより周囲を気にした可能性がある。

表1. 仮説の検討結果

要因	男性 (n=79)	女性 (n=90)	F 値
機能的リスク	3.60	3.05	7.88**
身体的リスク	2.91	2.66	1.24
心理的リスク	2.80	2.54	1.34
社会的リスク	3.70	3.19	4.90*
金銭的リスク	3.28	3.17	0.25
時間的リスク	4.52	4.39	0.27

Wilks のラムダ=.92,  $F(6, 165)=2.23$ , \* $p<.05$ , \*\* $p<.01$

## 4. 結論

本研究は、知覚リスクを男女、チームへの愛着 (高・低)、ホームタウンチームの支持者か否かの3通りで比較検討した。今後はどの阻害要因がスポーツ観戦の可能性に影響を及ぼすかを検討することが課題である。今後の研究の一助として、本研究が役立つことを期待したい。

### 【引用参考文献】

フィリップ・コトラー、ケビン・レーン・ケラー (2008) マーケティング・マネジメント (第12版)。ピアソン・エデュケーション。